

企画展

堺の技と美

5/20^{Tue} → 7/13^{Sun}

堺市博物館 Sakai City Museum

工芸を彩るレッド & ブルー

Special exhibition : Art and Craftsmanship Fostered in Sakai — Red and Blue in Crafts —



第1章 エネルギーの赤、マジカルな赤

Chapter 1 - RED AS ENERGY, MAGICAL RED

古代の日本において、「アカ」は明るい様子を表わす言葉だったといわれます。太陽や火を描く時には赤色が用いられますが、赤は光や熱のエネルギーを象徴する色といえます。また、血を連想させる色でもあり、「情熱の赤」というように、心身の燃えるようなパワーもイメージさせます。

古代遺跡の発掘調査では、棺や石室などにしばしば赤色が発見されます。古代人にとって、赤は死者の魂を鎮め、その再生を願うなど、呪術的な意味を持つ色であったとみられます。また、『魏志倭人伝』には人びとが体を赤く塗っていたことが記されており、生きている人間にとっても魔除けなどのマジカルな意味があったと考えられます。

日本では赤系の彩色には、ベンガラ(酸化鉄)・辰砂(硫化水銀)・鉛丹(酸化鉛)が顔料として、茜・紅花・蘇芳が染料として用いられました。人びとはより鮮やかな赤を求め、南蛮貿易の時代にはコチニールなどの色材が、幕末・明治時代には化学合成された赤が輸入されました。

本章では、古代から近現代までの資料を展示し、それらのなかにさまざまな赤を見てみます。

It is said that in ancient Japan *aka* (red) was the word commonly used to express a bright atmosphere. As we use red for depicting the sun and fire, red is the color to symbolize the energy of light and heat. Red is also the color that reminds us of blood, and it has an image of the burning power of the human's soul and body, often expressed as "passionate red".

Red is often found on coffins and stone chambers excavated at ancient sites. It is considered that red had a magical meaning, as it was used to calm the souls of the dead and wish for their rebirth. "*Gishi-wajinden* (record of Japan in the History of Wei Dynasty)" says ancient people painted their bodies red, which implies that red had magical meanings, even for living people, to ward off evil spirits.

In Japan, the coloring agents for red tones historically included pigments like *bengara* (red iron oxide), *shinsha* (cinnabar), and *entan* (red lead), as well as dyes derived from plants such as *akane* (East Asian madder), *benibana* (safflower), and *suo* (sappanwood). Over time, people came to seek brighter shades of red, leading to the import of coloring materials like cochineal during the Nanban trade era. Later, in the late Edo period and Meiji era, chemically synthesized red pigments were introduced, marking a significant advancement in coloring techniques.

In this chapter, we exhibit materials from ancient times to the present time, showing a variety of reds.



メノウ製勾玉 (1-09)

反正天皇陵古墳(田出井山古墳)出土 古墳時代中期(5世紀中頃) 堺市文化財課

古墳の外濠(二重目の濠)から出土した。

古代の装身具には様々な素材が使われた。

メノウ(瑪瑙)の産地としては、出雲地方が知られており、弥生時代から玉作りが行われてきた地域である。

メノウは硬質で、加工には熟練した高度な技術が要る。古代の人々にとって特別な石であったことがうかがえる。



漆塗太鼓形酒筒(1-14)

室町時代・文明5(1493)年 堺市博物館
重要文化財

太鼓の形をした容器。4斗樽のお酒が入りそうな大きさである。

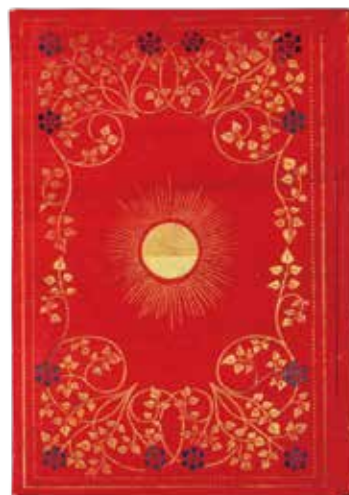
胴に彫られた銘文から、文明5年(1473)、行盛という僧侶によって「天野山王院」(高野山の丹生都比売神社の神宮寺)の長床(参籠所のこと)に寄進されたことや、木を削って細工をしたのが「四良次良」で、漆を塗ったのが「次良五良」であるということがわかる。

湊焼海老形向付(1-21)

長浜屋吉兵衛作 江戸時代後期～明治時代(19世紀)
堺市博物館

湊焼は堺の焼物で、その始まりは江戸時代前期と伝わる。井原西鶴の『世間胸算用』(元禄5年:1692)にその名称が書かれている。

長浜屋吉兵衛は幕末から明治10(1877)年頃に作陶していたようで、残された作品は、精緻なものが多い。本作は型物作りで、底面にも海藻を線刻し、趣向を凝らした作品である。



与謝野晶子歌集『太陽と薔薇』山本鼎装幀(1-32)

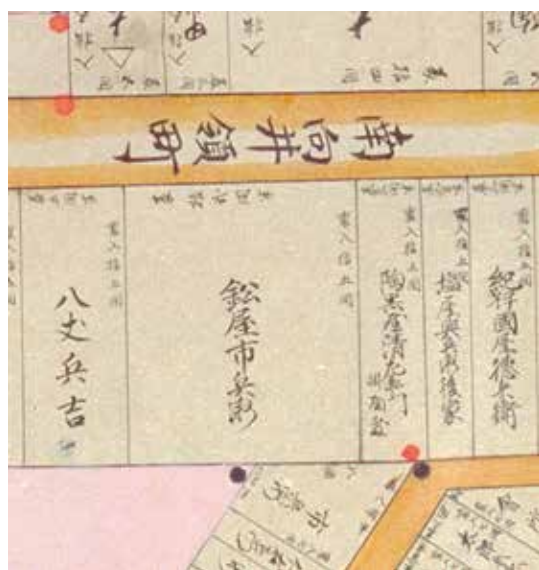
大正10(1921)年 さかい利晶の杜 与謝野晶子記念館

晶子42歳の頃に発行された歌集で、550首を収録する。太陽と薔薇それぞれを素材にして詠んだ歌を多く含む。華やかな洋風の装幀は、版画家・洋画家の山本鼎(1882～1946)による。表紙には、赤地に金銀の箔押しで、図案化された太陽と薔薇が表される。函には、満開の紅白の薔薇が描かれる。

コラム：神社を彩る鉛丹（えんたん）の赤



多治速比売神社本殿（重要文化財）



元禄2(1689)年堺大絵図模写本(部分)
堺市博物館



株式会社鉛市商店製 社寺塗装用鉛丹 昭和初期

山川隆平『鉛丹及び鉛白と鉛屋市兵衛』（後藤捷一編、株式会社鉛市商店・合資会社荻田商店、1939年）より

日本の神社で見られる赤色の鳥居や建築物は、どのような方法で彩色されているのでしょうか。例えば、多治速比売神社本殿（重要文化財）では、昭和29(1954)年の修理の際に「丹塗（にぬり）」によって彩色が施されました。丹塗とは、神社建築などに用いられる赤色系の塗装技法で、この修理時には鉛の酸化物である鉛丹（四酸化三鉛 Pb_3O_4 ）が用いられました。顔料は黄色を帯びた赤色をしており、日本では古代からその存在が知られていました。奈良の東大寺にも実物が納められています。

こうした鉛丹の製造・販売に関わってきた家として、堺の鉛屋市兵衛家があります。同家の家伝によれば、室町時代の応永年間（1394～1428）に明人から直接鉛丹の製法を教わったとされています。

遅くとも江戸時代初期の寛永年間（1624～1644）頃には営業しており、南向井領町（現在の堺区市之町東6丁）に屋敷を構えました。その後、元文2(1737)年には、同家を含む堺・大坂の製丹業者7名が「御定丹製法人」として幕府に公認され、鉛丹の専売が許可されました。

明治時代以降は、大正15(1926)年に株式会社鉛市商店として形を変えながらも存続し、現在では後継会社のひとつであるNIケミテック株式会社がその伝統を受け継ぎ、文化財補修用の鉛丹（嵩高鉛丹）の販売を行っています。

協力：NIケミテック株式会社



第2章 あいまいな青、憧れの青 Chapter 2 - AMBIGUOUS BLUE, LONGING BLUE

古代の日本において、「アオ」はあいまいな様子を表わす言葉だったといわれます。青く見える水は、手にすくえば透きとおり、空の青ははるか遠く、どこまで行っても近づけません。自然界の青は、はっきりしない不思議な色ともいえます。

古代中国の五行思想において、春は青（緑）、夏は朱（赤）、秋は白、冬は玄（黒）で表わされます。五行思想は日本にも根付き、この思想にもとづく色のイメージは現代にも受け継がれています。たとえば、「青春」という言葉は、青と若さを結びつけ、文学や造形などに影響を与え続けています。

青色を人工的に表わすことは容易ではありませんでした。古代・中世の日本の人びとは青い器に憧れ、遠く海外から入手しました。日本で青磁や染付のやきもの、青いガラスなどの生産が可能になったのは江戸時代以降のことになります。

一方、タデ藍の葉を原料とする藍染は、奈良時代に始まるとされ、江戸時代には広く庶民にも普及しました。明治初期に来日した外国人は、この藍染を「ジャパン・ブルー」と呼び、藍染の青は日本を象徴する色の1つとなりました。

It is said that “ao” (blue or pale) was a word to express ambiguity in ancient Japan. Water that looks blue becomes transparent in the hand, and the blue of the sky is perpetually distant and unreachable. We can also say that the blue in the natural world is an indistinct and mysterious color.

In the philosophy of *wuxing* (five phases) of China, spring is represented by blue (or green), summer by vermilion (red), autumn by white, and winter by black. The five phases philosophy also took root in Japan and the images of these colors have been inherited by modern Japan. For example, the word *seishun* (blue spring, or adolescence) is made by combining the characters for the color blue and youth, and it continues to influence literature and the arts.

Recreating the color blue artificially was a complex challenge. As a result, people in ancient and medieval Japan wishing to possess blue vessels had to acquire such items from distant places overseas. It wasn't until the Edo period that the production of blue porcelain, blue and white pottery, and blue glass became possible.

Meanwhile, indigo dyeing, in which *ai* (Japanese indigo) is used, is said to have begun in the Nara period and became widely popular among common people in the Edo period. In the early Meiji Era, foreigners called the indigo blue “Japan Blue,” and it has since become one of the iconic colors symbolizing Japan.



袈裟襷文銅鐸 (2-06)

堺市西区浜寺昭和町出土 弥生時代中期 (BC2世紀～AD1世紀)
堺市博物館 重要美術品

昭和3 (1928) 年にみつかった銅鐸で、発見場所の住人が物干棒を立てようとして破損させた部分が鐸身に残っている。多くの銅鐸と同様に、鰭を上下にして埋納されていたことがわかる。湯の回りが悪い箇所や文様の鑄出が不十分な箇所があるが、鑄掛やタガネで補刻するなどの丁寧な手直しと仕上げが施されている。

車輪石 (2-02)

乳岡古墳出土 古墳時代前期(4世紀後半) 堺市文化財課

装身具の腕輪を模した緑色凝灰岩(グリーンタフ)製の副葬品である。石棺の周辺から多数の腕輪形石製品(車輪石18個体、鋏形石3個体、異形1個体)が出土した。同じく前期古墳の長山古墳からも車輪石が出土している。

緑色凝灰岩の地層は本州の日本海側に広く分布する。火山灰中の鉱物が火山活動の熱水で変質した。加工しやすく古代には多く利用された。



青磁劃花蓮華文碗 (2-09)

田園遺跡出土 中国・南宋時代(12世紀中頃～13世紀初)
堺市文化財課

権威の象徴として大切にされた青磁は、所有者が亡くなると副葬品として埋納されることがあった。屋敷墓といわれる、その地に屋敷を構えた地位のある人物の墓に、伝来・愛用した青磁碗が埋納された。伝来した青磁碗の場合は、製作年代と埋納年代に差があることになる。

この碗は、製作年代は12世紀中頃～13世紀初、埋納年代は14世紀前半とみられる。



青花花鳥文盤 (2-19)

中国・明時代後期(16世紀～17世紀初)
堺市博物館

青花の技法は中国に始まる。素地にコバルト顔料で文様を描き、その上に透明釉を掛けて焼成し、青い文様を発色させる。日本でも江戸時代から生産が始まり、「染付(そめつけ)」と呼ばれた。

本作は、日本で染付の生産が始まる前のもの。明時代後期の景德鎮(けいとくちん)民窯の製品とみられる。その頃、貿易都市として栄えていた堺の遺跡から、本作と似た器が出土している。

出品リスト

番号／名称／作者／出土地／時代／世紀・西暦／所蔵／指定の順に該当するものを記載

第1章 エネルギーの赤、マジカルな赤

- 01／ふとん太鼓（親太鼓、子太鼓）／堺市博物館
- 02／猿田彦命面／江戸時代・享保6年／1721年／開口神社
- 03／多治速比売神社 本殿 墓股（複製）／堺市博物館
- 04／元禄堺大絵図模写本／昭和2年／1927年／堺市博物館
- 05／励乃魁（界府繁栄家他国取引鑑）／江戸時代・安政2年／1855年／個人
- 06／住吉・堺名所并豪商案内記／明治16年／1883年／堺市博物館
- 07／日本元祖丹製造所・鉛市兵衛引札／明治時代／19世紀／堺市立中央図書館
- 08／嵩高鉛丹／現代／21世紀／NIケミテック株式会社
- 09／メノウ製勾玉／反正天皇陵古墳（田出井山古墳）出土／古墳時代中期／5世紀中頃／堺市文化財課
- 10／棗玉／大塚山古墳出土／古墳時代前期／4世紀末／堺市博物館
- 11／朝顔形埴輪（口縁部）／御廟山古墳出土／古墳時代中期／5世紀前半／堺市文化財課
- 12／円筒埴輪（口縁部、胴部）／堺環濠都市遺跡391地点出土／古墳時代前期／4世紀後半／堺市文化財課
- 13／赤色顔料付着の土師器高杯／陵南遺跡出土／古墳時代中期／5世紀中頃／堺市文化財課
- 14／漆塗太鼓形酒筒／室町時代・文明5年／1493年／堺市博物館／重要文化財
- 15／朱漆塗春日盆／江戸時代／16～19世紀前半／堺市博物館
- 16／一休宗純画像（朱太刀像）／江戸時代／16～19世紀前半／堺市博物館
- 17／桐梅并桁に藤文様縫箔裂／安土桃山時代／16世紀後半／堺市博物館
- 18／紅糸威大鎧／江戸時代後期／19世紀前半／堺市博物館
- 19／紅縮緬地桧垣に南天文様小袖／江戸時代後期／18世紀後半／堺市博物館
- 20／呉須赤絵碗／堺環濠都市遺跡301地点出土／中国・明時代後期／16世紀後半～17世紀初／堺市文化財課
- 21／湊焼海老形向付／長浜屋吉兵衛作／江戸時代後期～明治時代／19世紀／堺市博物館
- 22／湊焼木葉形皿／7代上田吉右衛門作／江戸時代後期／19世紀／堺市博物館
- 23／湊焼木葉形皿／7代・8代上田吉右衛門作／江戸時代後期／19世紀／堺市博物館
- 24／南蛮屏風／江戸時代初期／17世紀初／堺市博物館／重要美術品
- 25／洋風女性図／江戸時代初期／17世紀初／堺市博物館
- 26／草花文様更紗（インド更紗）／19世紀後半～20世紀／堺市博物館
- 27／草花文様更紗（和更紗）／江戸時代後期～明治時代／19世紀／堺市博物館（濱田謙次氏寄贈）
- 28／大日本物産図会／和泉国堺浦桜鯛并魚市之図／3代歌川広重筆／明治10年／1877年／堺市博物館
- 29／朱竹図／野呂介石筆／七言絶句「題介石老人画」／頼山陽筆（対幅）／江戸時代後期／19世紀前半／堺市博物館
- 30／堺焼朱竹図皿（2種）／2代金田新平作／昭和時代／20世紀／堺市博物館（山田寧氏寄贈）
- 31／与謝野晶子歌集『常夏』／中澤弘光装幀／明治41年／1908年／さかい利晶の杜 与謝野晶子記念館
- 32／与謝野晶子歌集『太陽と薔薇』／山本鼎装幀／大正10年／1921年／さかい利晶の杜 与謝野晶子記念館

第2章 あいまいな青、憧れの青

- 01／与謝野晶子評論集『若き友へ』／中澤弘光装幀／大正7年／1918年／さかい利晶の杜 与謝野晶子記念館
- 02／車輪石／乳岡古墳出土／古墳時代前期／4世紀後半／堺市文化財課
- 03／ガラス小玉／大塚山古墳出土／古墳時代前期／4世紀末／堺市博物館
- 04／ガラス器壺（仁徳天皇陵古墳出土）復元／堺市博物館
- 05／袈裟襷文銅鐸／堺市下田遺跡出土／弥生時代後期後半／1～2世紀／大阪府教育委員会／大阪府指定文化財
- 06／袈裟襷文銅鐸 堺市西区浜寺昭和町出土／弥生時代中期／BC2世紀～AD1世紀／堺市博物館／重要美術品
- 07／袈裟襷文銅鐸（浜寺昭和町出土）当初の姿の復元／堺市博物館
- 08／袈裟襷文銅鐸（浜寺昭和町出土）を構成する金属（左から銅・錫・鉛）／堺市博物館
- 09／青磁劃花蓮華文碗／田園遺跡出土／中国・南宋時代／12世紀中頃～13世紀初／堺市文化財課
- 10／青磁蓮弁文碗（2点）／小角田遺跡出土／中国・元時代／13世紀末～14世紀初／堺市文化財課
- 11／青磁劃花飛雲文碗／城／山古墳隣接地出土／中国・南宋時代／12世紀中頃～13世紀初／堺市博物館
- 12／青磁貼付菊花文大鉢／堺環濠都市遺跡82地点出土／中国・元時代～明時代前期／14世紀後半～15世紀前半／堺市文化財課
- 13／青磁蓮弁文天目形碗（2点）／堺環濠都市遺跡82地点出土／中国・元時代～明時代前期／14世紀後半～15世紀前半／堺市文化財課
- 14／青磁蓮弁文天目台（2点）／堺環濠都市遺跡82地点出土／中国・元時代～明時代前期／14世紀後半～15世紀前半／堺市文化財課
- 15／青磁袴腰香炉（2点）／堺環濠都市遺跡82地点出土／中国・元時代～明時代前期／14世紀後半～15世紀前半／堺市文化財課
- 16／青磁馬上杯（3点）／堺環濠都市遺跡82地点出土／中国・元時代～明時代前期／14世紀後半～15世紀前半／堺市文化財課
- 17／青磁牡丹文盤／堺環濠都市遺跡82地点出土／中国・元時代～明時代前期／14世紀後半～15世紀前半／堺市文化財課
- 18／世界図・日本図屏風／江戸時代前期／17世紀／個人／堺市指定文化財
- 19／青花花鳥文盤／中国・明時代後期／16世紀～17世紀初／堺市博物館
- 20／伊万里焼染付世界地図皿 「本朝天保年製」銘／江戸時代後期／19世紀前半／堺市博物館
- 21／伊万里焼染付日本地図変形皿 「日本文政年製」銘／江戸時代後期／19世紀前半／堺市博物館
- 22／源氏物語図色紙（須磨）／土佐光吉筆／江戸時代初期／17世紀初／堺市博物館
- 23／源氏物語図色紙（明石、胡蝶）／土佐派筆／江戸時代初期／17世紀初／堺市博物館
- 24／源氏物語図色紙（漂標、玉蔓、浮舟）／江戸時代中期／17世紀後半～18世紀／堺市博物館
- 25／大堰川図屏風／狩野栄信筆／江戸時代後期／19世紀前半／堺市博物館
- 26／浪花百景 住吉本社／一珠斎国員筆／江戸時代後期／19世紀前半／堺市博物館
- 27／唐人図更紗（和更紗）／江戸時代後期～明治時代／19世紀／堺市博物館
- 28／紺木綿地鶴亀松竹梅文様裂／明治時代／19世紀後半／堺市博物館（正林菊子氏寄贈）

List of Exhibits

No./Title/Excavation location/Period/Century/Year/Collection/Designation

Chapter 1 - RED AS ENERGY, MAGICAL RED

- 01/Futon-daiko (Futon drum) floats, parent drum float and child drum float/Sakai City Museum
- 02/Mask of Sarutahiko-no-mikoto/Edo period, Kyoho 6/1721/Aguchi Jinja Shrine
- 03/*Kaerumata* strut used at the main shrine of Tajihayahime Shrine (reproductions)/Sakai City Museum
- 04/Map of Sakai in Genroku era (manuscript copy)/Showa 2/1927/Sakai City Museum
- 05/"Hagemi No Sakigake" (directory of renowned merchants and craftsmen in Sakai)/Edo period, Ansei 2/1855/Private Collection
- 06/Guidebook of famous places and stores in Sumiyoshi and Sakai/Meiji 16/1883/Sakai City Museum
- 07/Flyer (Authentic Japanese red pigment manufacturer, Namari Ichibe)/Meiji era/19th century/Sakai City Central Library
- 08/*Kasadaka* pigment (red lead)/Modern times/21st century/NI Chemitech Corporation
- 09/Agate magatama bead/Hanzei-tenno-ryo *Kofun* (Tadei-yama *Kofun*) /Mid Kofun period/Mid-5th century/Sakai City Cultural Properties Division
- 10/*Natsumedama* beads/Otsukayama *Kofun*/Early Kofun period/End of the 4th century/Sakai City Museum
- 11/Mouth of a flaring-mouthed cylindrical *haniwa*/Gobyoyama *Kofun*/Mid-Kofun period/Early-5th century/Sakai City Cultural Properties Division
- 12/Mouth and body of a cylindrical *haniwa*/Sakai Moat City site (point 391)/Early Kofun period/Late-4th century/Sakai City Cultural Properties Division
- 13/Earthenware stem cup with red pigment adhered/Ryonan site/Mid Kofun period/Mid-5th century/Sakai City Cultural Properties Division
- 14/Lacquered sake cask in the shape of a drum/Muromachi period, Bunmei 5/1493/Sakai City Museum/Important Cultural Property
- 15/Red lacquered tray for offerings/Edo period/16th to early-19th century/Sakai City Museum
- 16/Portrait of Ikkyu Sojun (with a large red sword)/Edo period/16th to early-19th century/Sakai City Museum
- 17/Fabric piece with embroidery and foiling of paulownia, plum, and wisteria/Azuchi-Momoyama period/Late-16th century/Sakai City Museum
- 18/*Kosode* of red crepe fabric with the design of higaki fence and nanten (Heavenly bamboo)/Late Edo period to Meiji era/Late-18th century/Sakai City Museum
- 19/Armor with red lacing/Late Edo period/19th century/Sakai City Museum
- 20/Red Swatow ware bowl/Sakai Moat City site (point 301)/Late Ming dynasty, China/Late-16th to the beginning of the 17th century/Sakai City Cultural Properties Division
- 21/Minato ware dishes in the shape of Japanese lobsters made by Nagahamaya Kichibe/Late Edo period to Meiji era/19th century/Sakai City Museum

- 22/Minato ware dishes in the shape of leaves by Ueda Kichiemon VII/Late Edo period/19th century/Sakai City Museum
- 23/Minato ware dishes in the shape of leaves/Late Edo period/19th century/Sakai City Museum
- 24/Nanban Byobu (Westerners at a port)/Early Edo period/Beginning of the 17th century/Sakai City Museum/Important Art Object
- 25/Woman in western clothes/Early Edo period/Beginning of the 17th century/Sakai City Museum
- 26/Floral chintz fabric (Indian chintz)/Late-19th to 20th century/Sakai City Museum
- 27/Floral chintz fabric (Japanese chintz)/Late Edo period to Meiji era/19th century/Sakai City Museum
- 28/Pictorial record of Japanese products, Fish market on Sakai beach, by Utagawa Hiroshige III/Meiji 10/1877/Sakai City Museum
- 29/Red bamboo by Noro Kaiseki with a poem by Rai San'yo/Late Edo period/Early-19th century/Sakai City Museum
- 30/Sakai ware red bamboo plates by Kanata Shinpei II/Showa era/20th century/Sakai City Museum
- 31/Poetry book "Tokonatsu (Ever Lasting Summer)" by Yosano Akiko, designed by Nakazawa Hiromitsu/Meiji 41/1908/Sakai Plaza of Rikyu and Akiko, Yosano Akiko Museum
- 32/Poetry book "Taiyo To Bara (Sun and Roses)" by Yosano Akiko, designed by Yamamoto Kanae/Taisho 10/1921/Sakai Plaza of Rikyu and Akiko, Yosano Akiko Museum

Chapter 2 - AMBIGUOUS BLUE, LONGING BLUE

- 01/Critique book "Wakaki Tomo E (To young friends)" by Yosano Akiko, designed by Nakazawa Hiromitsu/Taisho 7/1918/Sakai Plaza of Rikyu and Akiko, Yosano Akiko Museum
- 02/Wheel-shaped stone (bracelet-shaped stone)/Chinooka *Kofun*/Early Kofun period/Late-4th century/Sakai City Cultural Properties Division
- 03/Glass beads/Otsukayama *Kofun*/Early Kofun period/End of the 4th century/Sakai City Museum
- 04/Glass jar excavated at Nintoku-tenno-ryo *Kofun* (reproduction)/Sakai City Museum
- 05/*Dotaku* bronze bell with crossed bands design/Sakai City Shimoda site/Second half of the late Yayoi period/1st to 2nd century/Osaka Prefectural Board of Education/Osaka Prefecture Cultural Property
- 06/*Dotaku* bronze bell with crossed bands design/Sakai City Hamaderashowa-cho/Mid Yayoi period/2nd century BC to 1st century AD/Sakai City Museum/Important Art Object
- 07/*Dotaku* bronze bell with crossed bands design excavated at Hamaderashowa-cho (reproduction restored to its original form)/Sakai City Museum
- 08/Metals comprising the dotaku excavated at Hamaderashowa-cho (from left to right : copper, tin, lead)/Sakai City Museum
- 09/Celadon bowl with carved lotus flower design/Tazono site/Southern Song dynasty, China/Mid-12th to the beginning of the 13th century/Sakai City Cultural Properties Division
- 10/Celadon bowls with lotus petal design/Kokanda site/Yuan dynasty, China/End of the 13th to the beginning of the 14th century/Sakai City Cultural Properties Division

- 11/Celadon bowl with carved flying clouds design/Adjacent area of Jo-no-yama *Kofun*/Southern Song dynasty, China/ Mid-12th to the beginning of the 13th century/ Sakai City Museum
- 12/Large celadon bowl with attached chrysanthemum flower design/Sakai Moat City site (point 82)/Yuan to Early Ming dynasty, China/Late-14th century to early-15th century/Sakai City Cultural Properties Division
- 13/Celadon tenmoku bowls with lotus petal design/Sakai Moat City site (point 82)/Yuan to Early Ming dynasty, China/ Late-14th century to early-15th century/Sakai City Cultural Properties Division
- 14/Celadon tenmoku stands/Sakai Moat City site (point 82)/Yuan to Early Ming dynasty, China/Late-14th century to early-15th century/Sakai City Cultural Properties Division
- 15/Celadon incense burners in *hakamagoshi* shape/Sakai Moat City site (point 82)/Yuan to Early Ming dynasty, China/Late-14th century to early-15th century /Sakai City Cultural Properties Division
- 16/Celadon *bajohai*(horse rider's cups)/Sakai Moat City site (point 82)/Yuan to Early Ming dynasty, China/Late-14th century to early-15th century/Sakai City Cultural Properties Division
- 17/Celadon plate with peony flower design/Sakai Moat City site (point 82)/Yuan to Early Ming dynasty, China/Late-14th century to early-15th century/Sakai City Cultural Properties Division
- 18/Folding screens with the maps of the world and Japan/Early Edo period/17th century/Private Collection/Sakai City Cultural Property
- 19/Blue-and-white plate with flowers and birds design/Late Ming dynasty, China/16th to the beginning of the 17th century/Sakai City Museum
- 20/Imari ware blue-and-white plate with world map (inscribed "Made in Japan during the Tenpo era")/Late Edo period/Late-19th century/Sakai City Museum
- 21/Imari ware blue-and-white plate with the map of Japan (inscribed "Made in Japan during the Bunsei era")/Late Edo period/Late-19th century/Sakai City Museum
- 22/"Suma" from The Tale of Genji, by Tosa Mitsuyoshi/Early Edo period/Beginning of the 17th century/Sakai City Museum
- 23/"Akashi and Kocho" from The Tale of Genji, by Tosa School painters/Early Edo period/Beginning of the 17th century/Sakai City Museum
- 24/"Miotsukushi, Tamakazura, and Ukifune" from The Tale of Genji /Mid Edo period Late-17th to 18th century/Sakai City Museum
- 25/Oi River, by Kano Naganobu/Late Edo period/Early-19th century/Private collection
- 26/One Hundred Views of Naniwa, Main shrines of Sumiyoshi Taisha Shrine, by Ichijusai Kunikazu/Late Edo period/Early-19th century/Sakai City Museum
- 27/Chinese literati (Japanese chintz)/Late Edo period to Meiji era/ 19th century/Sakai City Museum
- 28/Indigo cotton piece with the design of shochikubai (pine, bamboo and plum trees) and tsurukame (crane and tortoise)/Meiji era/Late-19th century/Sakai City Museum



世界図・日本図屏風(2-18)

江戸時代前期(17世紀) 個人 堺市指定文化財

世界図と日本図からなる一対の屏風のうちの世界図。海の群青が鮮やかである。世界図は、ユーラシア大陸とアフリカ大陸を描く。地図の左右には、国やまちの名前、日本との交易品、そして長崎からの距離が記される。大明国の天川(マカオ)の項を見ると、数々の交易品のなかに、「光明朱」(こうみょうしゅ。品質の良い、高価な朱)が挙げられている。

企画展

堺の技と美 工芸を彩るレッド&ブルー
解説パンフレット

発行日: 令和7(2025)年5月20日

編集・発行: 堺市博物館

印刷: 株式会社ケーエスアイ